



新治小学校だより

平成 31(2019)年度

5月号

学校教育目標：ひびく心 はすむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して活かしながら、

よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

平成 31 年 4 月 26 日

こんな子どもたちに育って欲しい ～学校教育目標の具現化を目指して～

校長 宮本 雅司

新緑が美しい季節になりました。新年度がスタートして1か月が経ち、令和元年を迎えます。4月は、生活目標の通り「学校生活のきまり」を守って行動しようとしている子どもたちの姿にたくさん出会えて嬉しく思いました。朝会や避難訓練では整然と話を聞くことができ、教室でも新しい学年や学級での学習や活動に落ち着いて取り組んでいる子どもたちの素敵な姿を見ることができました。出会った人とのよりよい関係づくり、そして、新たな生活環境への適応等は、これからの子どもたちの成長を考えると大切な資質や能力です。保護者や地域の皆様とともに、これからも子どもたちを励ましていきたいと思ひます。

さて、先日の学校説明会でもお話をさせていただきましたが、今年度からの3か年の中期学校経営目標を下記のように考えています。



☆新治のよさを持続して活かしながら、

よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指します☆

「新治のよさ」とは、学校を取り巻く恵まれた自然環境や社会環境、130年もの歴史と伝統の中で培われてきた新治小学校の文化、そして、学校の教育活動を支援してくださる地域や保護者の方々のよさです。その素晴らしいよさを活かしながら、今、学校に求められている「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していこうと考えています。「学校は子どもたちにとって社会への準備段階」であり、「学校は子どもたちにとっての実社会」でもあります。子どもたちは、「学校」という社会の縮図の中で、学級・学年・学校の仲間、教職員・保護者・地域等、学習や教育活動において様々な人との出会いやかかわりを経験しながら、人として大切な資質や能力を身に付けていきます。私たち大人がよりよい社会を創ることが求められているのと同様に、近い将来、自立した大人になっていく子どもたちです。自分とかわる様々な周囲の人と「共によりよく生きよう」「共に学び、成長しよう」「より望ましい自分になるう」と、自らよりよく伸びようとする姿を学校＝社会の中で育んでいきたいと思ひています。

『ひびく心』で育みたい姿

- 学習に興味や関心をもつ
- 自ら課題を進んで調べたり、意欲的に活動に取り組んだりする
- 知っていること、できることを使って、自ら進んで考えたり表現したりする
- より望ましい判断ができる
- 友達や人から学ぼうとする
- 自分の学びや言動を振り返ることができる 等



『はすむ体』で育みたい姿

- 望ましい食生活や体カづくりに進んで取り組む
- 嫌なことから逃げずに挑戦する
- 失敗してもくじけずに立ち直り、最後まであきらめないで取り組む
- 安全に気を付けて行動することができる
- 物事に前向きに取り組む、よりよく生活しようとする 等



『見つめる目』で育みたい姿

- 目標や夢、願いをもって行動する
- 人のよさを見つける、認める
- 多角的な見方・考え方ができる
- クラスや学年、学習にかかわる人と協力し、よりよい言動ができる
- 人や社会・地域のためにできることをしようとする
- 自分の成長を見つめ、自分のよさや有用感を感じることができる 等



4月は、授業参観や懇談会、家庭訪問、学校説明会やPTA総会等へのご協力をありがとうございました。「新治ラリー」や10連休の後の5月は、運動会に向けての活動が中心になりそうです。引き続き、学校教育活動へのご理解とご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。